

県南広域水道料金の値下げを求める要望書（2010年1月22日）

県企業局長 渡邊 一夫 様

日本共産党茨城県議 山中たい子

日本共産党県南広域水道関係議員

貴職のご奮闘に敬意を表します。県民の暮らしがますます厳しくなっています。特に県南地区では、高い水道料金が家計を圧迫しています。企業局は、たびたび「県南が一番安い」と述べてきましたが、「高い、安い」は家庭の蛇口の値段です。企業局が企業経営を考えるのは当然ですが、県民の生活を忘れた議論です。いま行政に求められることは、なによりも県民の暮らしをまもることではないでしょうか。

県南広域水道用水供給事業は、大幅な黒字を続けています。平成20年度決算では総収益78億7千万円、総費用64億7千万円で14億円（20%）もの黒字になっています。

20年度の平均給水量は21万 m^3 /日と低下傾向にあり、施設稼働率（施設能力30万6千 m^3 /日）は69%で、過大な水源開発と施設建設は鮮明です。ハッ場ダム、霞ヶ浦導水事業は中止し、すでに住民が払った分は国に返還を求め、値下げに活用すべきです。

また、水資源開発公団による霞ヶ浦開発事業に対する償還金が重い負担になってきましたが、償還が終わりに近づく、償還額が減額になってきます。現在も将来も値下げは可能です。

県南広域水道は、平成11年10月に値上げされ、現在の料金体系が10年間も続いています。県企業局は3年から5年で見直すと言ってきましたが、県南広域は見直しをさけてきました。来年度（2010年度）から値下げを要望し、以下の説明を求めます。

記

- (1) 平成20年度の黒字額（純利益）が20%を超えていることをどう考えていますか。平成19年度の全国平均9.5%からみても異常に高く、地方公営企業法第21条の「原価主義」にも反するのではないのでしょうか。ここでいう「原価」

をどう受けとめていますか。平成16年2月の「包括外部監査の結果報告」で「結果的にみれば、使用料7円の値上げをしなくても、平成12年度は1億55百万円、平成13年度は3億14百万円の黒字決算であった」「県南水道事業の収支予測は、他と比較してその精度があまりにも低く、結果として利用者に余分な負担をかけることになった」との指摘をどのように受けとめていますか。また将来の収支をどのように試算していますか、説明してください。

- (2) 給水量は、横ばいから低下傾向にあります。企業局作成の「中期経営計画（第2期）」との乖離も大きくなっています。乖離が生じた原因をどう考えていますか。また今後の給水予想をどのように考えていますか。八ッ場ダム、霞ヶ浦導水事業は、利水団体として必要性をどう考えていますか、説明してください。
- (3) 霞ヶ浦開発事業の県と県南広域水道の負担額と償還計画（金利も含め）、今後の償還額を説明してください。
- (4) 県南水道事務所（霞ヶ浦浄水場）改築事業の総事業費、財源、償還計画、毎年の減価償却費を説明してください。
- (5) 県南広域から他の水道会計への貸付金と利子、償還計画を説明してください。
- (6) 県南広域水道の料金見直しをなぜさけてきたのでしょうか。20年度改定はなぜおこなわなかったのでしょうか。いつ料金の見直しをする計画ですか、説明してください。

以 上